

技術士第二次試験に合格して



松長 茂

勤務先:

株式会社 環境保全サイエンス 代表取締役副社長
〒060-0807 札幌市北区
北7条西1丁目
丸増ビル No.18

TEL 011-707-6234

FAX 011-707-6231

E-mail: SI-M@kankyohozen.co.jp

専門: 農業部門 (農業土木)

1. 自己紹介

この度、50歳代半ばにして、ようやく技術士二次試験に合格することができました。

私は1952年(昭和27年)に滝川市で生まれ、父の職業が公務員(食糧事務所)であったことから、高校卒業まで北空知の稲作地帯を転々といたしました。大学は東京の日本大学へ進み、農芸化学の有用微生物を専攻し、卒業後は試験研究的業務に携わることを希望して北海道へ戻りましたが、就職かなわず、道庁や農業関係の財団で臨時職員として勤務していたところ、現在の会社を紹介され、1976年(昭和51年)に入社しました。

当時の会社は、農地開発事業などにおける土壌調査を中心に土地資源調査業務を行っていましたが、創立直後で私が最初の社員であり、社長と2人の体制が3年間続きました。その間、土壌の専門家である社長から土地基盤整備や土壌改良の知識と技術をマンツーマンでの指導を受けることができました。

その後、社員が少しずつ増えて、私は管理的役割を担うようになり、会社の業務内容も、農業農村整備事業に関する資源経済業務全般に対応できるようになりました。1991年(平成3年)に代表に就任しましたが、経営の傍ら一部の業務にも携わっており、近年は家畜ふん尿処理等の業務を担当しています。

趣味は野菜づくりと読書(科学、歴史、宗教など)で、文字通り晴耕雨読を楽しんでいます。

2. 技術士試験

技術士資格については大学の頃から知っていましたが、当時は公害防止技術の方に関心があり、私には無縁と思っていました。その後、農業関係のコンサルタント業に就き、この業界では不可欠な資格であることを知らされましたが、当時はまだ有資格者も少なく、私にとっては高嶺の花でありました。

しかし、1993年(平成5年)頃から周囲に同世代の合格者が出始めたため、私も本格的にこの資格を意識するようになり、最初は専門の農芸化学で受験しましたが、結果は悲惨なものでした。その後農村環境分野で何度か挑戦しましたが、勉強方法もわからず一夜漬け的な準備であったため、散々に退けられました。

そうこうしているうちに受験制度が変わり、2004年(平成16年)に一次試験に合格してからは、農業土木分野に的を絞り、先輩技術士の指導を受けながら勉強して、再び受験制度が変更になった初年目で筆記試験に合格しました。口答試験の方は講習会なども受けて十分に準備できたので、特に問題なく自信もあつたのですが、合格発表までの約3ヶ月間は長く不安な日々でした。

3. 今後に向けて

私は農芸化学の専門からこの業界に入り、約10年前からは家畜ふん尿処理技術に関する業務に携わってきました。しかし、化学や微生物の知識だけでは解決できない問題が多く、施設造成における構造や規模などの知識の必要性を痛感しておりました。また、門外漢では活躍の機会も限定されてしまうと考え二転三転の末、農業土木を選択しました。

今後は、これまで以上に社会的責任も重くなることを自覚し、公共の利益の確保ということを胸に刻み、資質の向上に努めたいと思います。また、技術士としてより高度な技術的判断が必要となってくることから、今まで以上に技術の研鑽に励み、人脈形成や交流の中から広い知識を習得するとともに、技術者としての経験や知識を若手に伝えていきたいと考えています。これからもご指導、ご鞭撻賜りますよう宜しくお願いいたします。



南 紀行

勤務先：

株式会社メンテック

営業部

〒060-0807 札幌市北区

北7条西5丁目8-5

TEL 011-726-7661

FAX 011-726-7565

E-mail: noriyuki.minami@data-g.com

専門：上下水道部門（下水道）

1. 自己紹介

このたび技術士第2次試験に合格し、技術士となりました南です。

私は、1973年（昭和48年）に札幌市に生まれ、高校までを札幌で過ごしました。大学生時代は、4年間を室蘭（室蘭工業大学工学部応用化学科）で、最後の年は下水汚泥生物の研究をしていました。1996年（平成8年）に卒業した後は現在の会社に入社しまして、今年で入社13年目となります。

会社では主に下水処理に携わっていましたが、幕別町を振り出しに、下川町、上川郡朝日町（現・士別市朝日町）と異動し、生まれてからは人口がどんどん少ない都市に居住することになっていたの、札幌に戻り、人の多さに改めて吃驚した記憶があります。

なお、二次試験合格当時は総務部所属でしたが、現在は、技術士合格の為か明確ではありませんが、営業部所属で業界の最新の技術情報に接し、現場の技術力向上にも携わる部署に配属して頂きました。

2. 技術士試験について

入社した時に社長より、「資格」が大切だとの訓示があり、資格について調べた際に「技術士」が存在する事は知っていましたが、まさか自分が取れるとはその当時は全く思っていませんでした。関連会社に技術士の方が数名おり、技術的にはもちろん、

人格的にも優れた人でありましたので、憧れ半分、会社からの指示半分で1次試験を2005年（平成17年）度に受験し幸いにして合格しました。翌年は二次試験を受験しましたが筆記試験で落ち、今回は試験方法も変わり心配しましたが、特に、経験論文の作成および口答試験にあたり指導いただいた諸先輩方、そしてこれまでお世話になりましたお客様に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

二次試験に合格して思ったのは、総務部であっても色々な技術的な情報に触れる機会が多く、そのため準備が不十分と感じた筆記試験でもうまく合格することができたのだと思います。日頃から、専門分野だけでなくあらゆる情報に対して好奇心を持ち、また、耳を塞がない姿勢でいたことが今回の良い結果になったのだと感じました。

3. 今後に向けて

「下水」に注目し技術力の向上を目指してまいりましたが、「上水」やその他の視点から「水」を見ることができます。技術士としては、設計・施工・維持管理という施設のサイクルを考えた中で、他の技術者と連携し、公共の安全、環境の保全その他の公益を害することのない世の中を作っていくことが使命だと考えておりますが、もっと大きな、宇宙的規模の視点で「水」という物を考え、社会に貢献できる技術として何か形に残せたら、と考えております。

4. おわりに

私にとって技術士試験合格は1つの成果ではありますが、そこで終わりという物ではありません。もっとも技術力の向上に邁進し、諸先輩方が築き上げた歴史を今後もより良いものとすべく、私の力を微力ながらも発揮させていきたいと思っております。また、後輩の育成にも積極的に関わり、更なる発展を目指していきたいと思っております。

最後になりますが、このような投稿の機会を与えて頂き誠にありがとうございました。今後ともご指導、ご鞭撻をよろしくお願い致します。



伊吹 敦

勤務先：

ダイシン設計株式会社
防災部防災課
〒060-0005 札幌市中央区
北5西6-1-23
道通ビル4F

TEL 011-222-2325

FAX 011-232-0540

E-mail: A-Ibuki@dacc.co.jp

専門：応用理学部門（地質）

1. 自己紹介

私は1967年（昭和42年）関西生まれですが、幼少期から高校生まで札幌で過ごしました。その後、早稲田大学（教育学部理学科地学専修）に進み、中生代の古生物（大型化石）を用いた化石層位を研究していました。研究フィールドが北海道だったこともあり、現在の会社にUターン就職し、今年で13年目になります。仕事は地すべりなど斜面安定に関する調査・設計を主に担当しています。デスクよりも現場へという社風のもと、とにかく現場で何か見つけてこようという精神で毎日仕事に向かっています。

趣味は旅行です。特に未開の途上国に行き、現地の人の暮らしや自然を感じてくるのが大好きです。以前に中国の新疆ウイグル自治区のタクラマカン砂漠をジープで縦断した時の感動は今でも忘れることができません。最近は子育てのため国内旅行専門ですが、子供が大きくなったらアフリカのサバンナに沈む夕日を見せてやるのが夢です。仕事柄、現地では地形や岩石に興味がいってしまい、いつもポケットは拾った石ころだらけになっています。

2. 技術士試験

受験の動機は、先輩技術士の活躍と知識の深さに憧れ、自分自身を高めたいと思ったことです。

1次試験は2000年（平成12年）に合格しましたが、自身の技術レベルが達していないと考え、2次試験は受験していませんでした。今回は2006年（平成

18年）に続き2度目の挑戦で無事合格できました。

受験対策は過去問とその周辺知識、地質・地球環境関連の時事的話題について徹底的に行いました。

前年に資料収集とまとめが一通り終わっていたので、不足分を補う感じでスムーズに受験対策に入れました。専門書を熟読し基礎から理解したこと、論述能力を高めるため、事前の模範解答づくりで文章作成に時間をさいたことが非常に有効でした。合格出来たポイントは、昨年の不合格により自分の弱点を把握でき、効率的に学習できたことだと思います。

2次試験当日の一問目は、いきなり「地球温暖化について三千字で」という超予想外の字数と抽象的なテーマで面喰らいましたが、経験と知識を組み合わせなんとか対応できました。

口頭試験も相当厳しいと聞いていたので、面接直前は異常に緊張しました。ここまで来たら何が何でも合格したいと強く思い、社内で行った模擬面接を思い出しながら質問に答えました。厳しい質問もありましたが、自分なりに最善の回答ができ、あっという間に時間が過ぎました。合格を確信し笑みを浮かべながら会場を後にしたのを覚えています。

受験に際しては学習方法の指導、論文添削、模擬面接など職場のバックアップも大きな力となりました。また、家庭生活の中に勉強時間を取り入れることは非常に難しいことだと感じました。これは家族の協力があったからこそできたことだと思います。しかし、この年齢にして机に向かう姿を子供に見せたことは、自己満足ではありますが何かしら今後の役に立つと思っています。

3. 今後に向けて

受験を通し知識の曖昧さが修正でき、最新の研究動向や業界の将来展望を知ることでもでき、実務においても非常に役立っています。今後は、将来的な業界動向を見据えて、市場ニーズに的確に対応できる幅広い知識を身に付けるとともに、コンサルタントとしての対応力を磨き、クライアントの信頼を高めたいと考えています。また、地球に関わる仕事をする者として、地球環境問題に関して何らかの貢献を果たしたいと考えています。



橋場 雅弘

勤務先：

株式会社福田水文センター
環境水工部計画課

〒001-0024 札幌市北区
北 24 条西 15 丁目

TEL 011-736-2371

FAX 011-736-2393

E-mail : hashiba@f-suimon.co.jp

専門：建設部門（建設環境）

1. 自己紹介：

私は 1965 年（昭和 40 年）に北海道北見市で生まれ、幼少の頃から父親の仕事の関係で各地を転々として参りました。たまたま田舎が多かったことから、子供の頃から山や海などで遊ぶことが多く、常に自然に囲まれた環境で育ちました。

山へ行っては昆虫を集め、飼育や標本作りに熱中する日々を送っていましたが、針葉樹が多い道東ではコエゾゼミが多く、道南に行くともんもんゼミやアブラゼミが主流になるなど、同じ北海道でも地域によってこんなに生物がすみ分けているのかと感心した記憶があります

その後、北海道大学水産学部で海洋生態学を専攻していたことから、縁あって現在の会社に生物分析担当として配属されました。

入社当初は北海道内の湖や河川の動植物プランクトンや付着藻類の分析を手がけた関係で、ほぼ全道の湖や河川を回りました。

その当時、先輩技術士からフィールドの見方、問題点のを見つけ方、そして多方面から柔軟に評価する能力をつけるために「いろいろな引き出し」をもつことの重要性を教えられました。

こうした指導の下で、徐々にですが生態系にとどまらず、水質や水文・水理の分野を幅広く手掛けるようになり現在に至っております。

2. 技術士試験

技術士という資格を意識したのは入社してからで、建設部門に携わる仕事をする上で最も重要な資格という認識でした。しかし、身近な技術士の諸先輩方を見ると、知識、経験、洞察力の深さ、内外からの信頼性などすべての面でレベルが高く、技術士のハードルの高さを感じていました。そのため筆記試験では不合格だったら「あなたはまだ技術士としては未熟ですよ、もっと日頃から研鑽しなさい。」と言われたものとして真摯に受け止めようと、比較的楽な気持ちで受験するよう努めました。

しかし、口述試験に進むことになってからとたんにプレッシャーがかかり始めました。先輩技術士に模擬試験を行っていただいた時は「技術士としてどう答えなければいけないか」と考えすぎ、自分を変に作り過ぎて少々自分を見失っていました。この時の失敗経験と、その際にいただいたアドバイスが本番の口述試験で活かされたのではないかと思います。忙しい時間を割いてくださった先輩技術士の方々に大変感謝しております。

3. 今後に向けて

2008 年（平成 20 年）7 月には北海道洞爺湖サミットが開催され、日本が世界に向けて「環境」に関するイニシアチブをとる時代になってきました。

自然環境を相手にする場合、解決策にマニュアルはないので、いかにフィールドのサインを見逃さず、現象を的確に押さえることができるか、論理的に評価することができるかが、解決策を導く道だと教えられてきました。

そのためには、まだまだ足りない知識の充足と技術の研鑽が必要だと感じております。また、自らの失敗や経験を若い世代へ伝えることによって、多くの有能な技術士を輩出できる手助けになれば幸いです。

今後とも技術士として社会的責任を自覚し、常に誠実に諸問題と向き合う姿勢を忘れないよう努力していきたいと考えております。みなさまのご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。